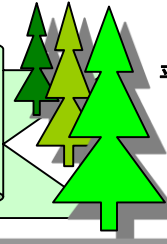


街路樹



2学期



教師力upの素の活用 ～生徒指導部会～

スクールカウンセラーの活用

調査研究委員会「生徒指導部会」では、自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高めるための有効な手立てについて調査研究を行い、実践例や資料の情報を提供しています。その一部を紹介します。

★学級開きのためのプランニングシート、学級開き実践資料(H28・29年度)【2学期スタートにもぜひ!】

学級開きの1時限目にどのようなことを行うか。

まず、所信表明。(中略)今後1年間、一切ぶれることなく、自分が貫き通す信念や理想、学級経営の目的や目標、児童生徒にどのように成長してほしいかという希望等をわかりやすく、熱く語るができるかが、その後の学級経営に大きく関わってくると思います。

- ・何事でも協力する学級→◎お互いの手を離さず生活する学級
- ・誰にでも優しい学級→◎いじめは絶対許さない学級

このほか

★生徒指導の4観点に基づくチェックシート、アンケート(平成22・23年度)

★生徒指導カレンダー(平成24・25年度)【動画で案内有】

★生徒指導日課表～児童生徒の成長を促し、問題行動を予防する生徒指導に向けて～(平成26・27年度)

もちろん、小学校編も中学校編も準備しています。

◆【FGSコンピューター】総合教育センターHP
→調査研究委員会→教師力upの素→生徒指導部会



昨年度から教育支援室が設置され、その中に5名のスクールカウンセラー(以下 市SC)で相談業務を行っています。今年度は、7月末までに、251件の相談を受けています。相談件数は平成28年度より年々増加しています。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
相談件数	75	176	251

相談内容では、「不登校の子ども」についてが最も多く、ついで「感情のコントロールに困難さのある子ども」についてとなっています。

スクールカウンセラーの業務内容は、

- ①児童生徒、保護者、教職員へのカウンセリング
 - ②カウンセリング等に関する教職員及び保護者に対する助言及び指導
 - ③情報の収集及び関係者への情報提供(保護者同意のもと)など
- となっています。

学校が主体となって子どもの困りや困難さ、考え、思いが主体となって子どもの困りや困難さ、考え、思いを把握し、子どもにとってより良い指導や支援を行うために、市SCを活用していただければと思います。

市SCを活用したい場合には、事前に教育支援室に連絡をいただくことになっています。詳しくは、「教育支援室活用の手引き」に記載されていますので、ご覧ください。また、各学校に県から派遣されているスクールカウンセラー(以下 県SC)の活用と連携によって、相談体制の充実を図っています。中学校区内の小・中学校間で連絡を密にして、県SCも有効に活用してほしいと思います。

「授業力向上講座Ⅱ小学校算数」講義より

「算数科の特性を生かした授業の展開」

—主体的・対話的で、深い学びの実現を目指して—
講師 明星大学客員教授 細水 保宏 先生

今年度も授業力向上講座Ⅱ小学校算数において、細水先生にご講義いただきました。その中で、子ども達をアクティブにして授業が楽しくなり、深い学びを実現させるための数々の技術を紹介していただきました。ここではその中のいくつかを紹介いたします。

○「主体的」について

授業のめあては子ども側にあるはずなので、教師側で一方向的に設定しない。子どもの問いを大切に。(主体性って何だろうと教師が意識することが大切)

○「対話的」について

「対話」には「教材との対話」「友達や先生との対話」「自分自身との対話」などがあるので、それを意識して授業を創り上げていく。

○「深い学び」について

「深い学び」とは教科の本質にせまる学びであり、算数・数学のよさや美しさ、考える楽しさを教師側で意識しながら授業するだけでも子どもが変わっていく。

- 子どもの発表に対して、「え?」「本当に?」「絶対?」「なんで?」と聞き返すことで、子どもから論理を引き出すようにする。何度も繰り返すうちに論理的に話すことができるようになる。
- 子どもが自分の考えを図に描いて表すようにする。(視覚化)

最後に、参加された先生方もとても熱心に取り組んでいた活動を紹介いたします。是非挑戦してみてください。

☆メイク10(テン)～4枚のカードで10を作る～

例: 8, 7, 5, 9 → (9+7) ÷ 8 × 5 = 10

① 9, 9, 9, 9

② 1, 9, 1, 9